

阪神淡路大震災から 20 年 あの場所の現在



1995

ポートアイランド
北公園

見慣れた北公園の景色（右）も、被災当時（上）は写真右下のように大きなひびが入っていました。

被災した場所の
当時と現在の写真を
並べて展示しています



2015

2015 年 10 月 1 日～2016 年 2 月 29 日

展示期間中の開館時間・休館日

期間	平日・土曜	日曜・祝日
10/1～12/25	9:00～21:00 ※10/31・11/2・12/25は18:00閉館、11/4は休館	休館 ※10/12・11/23・12/23は開館
12/26～1/5	冬期休館日	
1/6～2/5	8:45～21:00	
2/6～2/29	9:00～18:00	休館

※開館時間や開催時期は変更になることがあります。図書館 HP・掲示板にてご確認のうえでご来館ください。

神戸の現在

阪神淡路大震災後、神戸の街並みは復興しましたが、経済や活気の面では必ずしも元通りとは言えません。ポートアイランドの液状化の写真にもコンテナが写っていますが、震災前年の神戸港は、コンテナ港として世界 6 位を誇っていました。震災によって機能が一時停止したため 1995 年の取扱量が激減し、23 位に後退。その後も世界的にも国内でも順位が下がっているのが現状です。経済的な失速は震災だけが要因ではありませんが、神戸の街に与えた影響は計り知れません。



小野浜町球技場

当時生ごみが積まれていた場所も、20 年経た今は広々とした球技場になっています。

展示風景



ポニーアイ図書館
入口ゲート前です。
ご自由にご覧下さい。

参考資料

『伝えよう 1.17 の教訓：創造的復興から未来へ』

兵庫県創造的復興フォーラム実行委員会編
神戸新聞総合出版センター、2005 年
ポニーアイ館 2 階南 (369.31/TSU)
資料 ID:105202347



神戸市 HP
<http://www.city.kobe.lg.jp/>

日本銀行神戸支店 特別レポート
<http://www3.boj.or.jp/kobe/kouhyou/report/report131120.pdf>

編集後記

今回の神戸海洋博物館資料展では、発生から 20 年経った阪神淡路大震災で被災した場所の、当時と現在の写真を並べて展示しています。当時の写真からは、震災による深い傷跡が伝わり、その甚大な被害を改めて知ることができます。現在の写真は、多くの場所が復興を遂げている一方で、震災前の活気が戻っていない様子の場所もあり、本当の意味での復興とは何かを考えさせられました。

学生のみなさんは特に、阪神淡路大震災を知らない世代の方も多いと思います。2 枚の写真を見比べることで神戸の 20 年を知ってもらうとともに、過去の教訓から学び、防災に対する意識を新たに作るきっかけとなることを願っています。

SeaScape

第 19 号 2015 年 10 月発行

発行・編集 神戸学院大学ポートアイランドキャンパス図書館

〒650-8586 神戸市中央区港島 1 丁目 1 番 3

阪神淡路大震災から 20 年

あの場所の 現在

左は被災当時、
右が現在の様子です。
被害状況と復興した姿を
併せてご覧下さい。

1995 ▶▶ 2015



東門筋南側

建物の倒壊が深刻だった東門筋の商店も、現在は再建され、震災前の賑いを取り戻しているようです。

中突堤西側基部 車両の引揚げ

当時は海だった部分に車両が落ち、引揚げ作業が行われた様子が残っています。現在は埋立てられ、道路となっています。



ポートアイランド 液状化現象

埋立地であるポートアイランドでは、液状化による噴砂現象が発生し、黄土色の水を含んだ泥砂で覆われました。

六甲アイランドフェリーバース 旅客用渡橋

六甲アイランドのフェリー乗り場は、渡橋が歪み傾いている様子がわかります。現在は再び乗り場とフェリーを繋いでいます。

阪神淡路大震災の概要と被害状況

発生日月	平成 7 年 (1995 年) 1 月 17 日 5 時 46 分
震源地	淡路島北部(北緯 34 度 36 分、東経 135 度 02 分)
震源の深さ	16km
地震の規模	マグニチュード 7.3
死者	6,434 名 (平成 17 年 12 月 22 日に修正)
行方不明者	3 名
負傷者	43,792 名
住宅被害 全壊	104,906 棟 (186,175 世帯)
半壊	144,274 棟 (274,181 世帯)
一部破損	390,506 棟
非住宅被害	42,496 棟

平成 18 年消防庁発表『阪神・淡路大震災について (確定報)』より



メリケンパーク東護岸 臨時航路

メリケンパークの東護岸では、臨時航路が置かれました。道路や交通機関が寸断された中、多くの方がこの臨時航路を利用しました。当時の写真に写っている行列は、姫路行きに船に並ぶ人たちの様子です。

メリケン波止場

メリケン波止場周辺も、大きな被害を受けました。現在の写真にも傾いた外灯が写っているのは、この場所が神戸震災メモリアルパークとして保存されているためです。

中突堤基部 阪神高速道路

報道などでも象徴的に取り上げられることが多い阪神高速道路の被害は甚大なものでした。中突堤付近も、大きく崩れているのがわかります。阪神高速道路は 1996 年 9 月 30 日に全線復旧開通しました。